

平成 27 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

- 日 時 平成 27 年 6 月 30 日（火）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 7 人
同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、環境部長、経済部長
次 第 1 ポカテロ姉妹都市訪問団の相互派遣について
2 いわみざわ環境週間について
3 2015 いわみざわ彩花まつりについて
4 その他について

1 ポカテロ姉妹都市訪問団の相互派遣について

説明内容

（市長）

最初にポカテロ姉妹都市交流の相互派遣です。まず経緯でございますけれども、お手元に配布の資料 1 にまとめてあると思っておりますけれども、そもそも昭和 60 年 5 月 20 日に姉妹都市提携を結んでから今年で 30 年目となります。これまで鳥インフルエンザや東日本大震災の影響等により、訪問交流が出来ない年もございましたけれども、岩見沢市からは計 27 回、延べ 397 人がポカテロ市を訪問し、ポカテロ市からは計 26 回、延べ 390 人の方が岩見沢市に訪問いただき、親睦の交流事業を行ってきているところでございます。

次に、資料 2 でございますけれども、例年ですと青少年の交流でございますけれども、今年は、提携 30 周年ということから、例年の中高生の相互訪問に代わり、大人の訪問団による相互訪問ということで、5 年毎の節目の年に大人による相互訪問を実施しているところでございます。

相互訪問では先に、ポカテロ市からの訪問団が岩見沢にお越しいただきます。7 月 3 日の午後 8 時 30 分過ぎに新千歳空港に到着し、その日は、メープルロッジに宿泊ということでございます。

4 日から様々な交流が始まり、歓迎会、施設や学校訪問、日本文化の体験を行う予定になっております。また、10 日には例年いつも参加いただいております彩花まつりの観光踊りパレードに参加をいただき、11 日に帰国という日程でございます。

なお、岩見沢滞在中は、市内の 6 組のご家庭にホームステイをいただきまして、土曜、日曜はステイ先のご家庭との交流を予定しております。

資料 3 は、岩見沢からの訪問団の派遣についてでございます。派遣期間は 8 月 3 日から 8 月 11 日までの 9 日間の予定です。

訪問団の構成は、30 代から 70 代までの幅広い世代の 9 名の市民の方が訪問団に参加をするということでございます。今年の団長につきましては、姉妹都市岩見沢ポカテロ会副会長の矢野美恵さんに務めていただくことになっております。

当初は10名の訪問団員がポカテロ市を訪問することとしておりましたが、残念なことに1名がケガのため辞退ということになりまして9名となった次第であります。それに市の職員1名を随行者として、合計10名の訪問団でポカテロ市を訪問することになります。

なお、私も現在のところポカテロ市を訪問する予定で考えております。

また、8月9日までのポカテロ滞在中には、先方での歓迎会、市内見学、各種団体等との交流行事にも参加をいたします。その後、サンフランシスコに移動いたしまして、最終日には、サンフランシスコでは市内見学の他、現地在住の北海道出身者、その子孫で構成されております、北カリフォルニアどさんこ会の役員の皆さんとの懇親会に参加を予定しているところでございます。その懇親会の翌日、8月10日にはアメリカを離れて、11日午後、日本に帰国いたしまして、岩見沢には深夜に到着する予定ということでございます。

既に訪問団員の皆さんにつきましては、訪問団説明会や英会話教室等の準備を経まして、今年の岩見沢市の代表としてポカテロに出発することとなります。30年目の節目でございますので双方にとりまして、実り多い交流となることを期待しております。

質疑応答

なし

2 いわみざわ環境週間について

説明内容

(市長)

それでは、いわみざわ環境週間についてご説明させていただきます。

そもそも、いわみざわ環境週間につきましては、平成20年(2008年)7月の北海道洞爺湖サミットを契機に設けたものでございまして、本年で8年目です。7月1日から7月7日まで今年も開催をいたします。

この環境週間では、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全などに向けまして、イベントと啓発活動を通して、環境にやさしい社会づくりに向けまして、市民の方お一人おひとりの意識の醸成、あるいは活動につなげてまいりたいと考えている次第です。

最初に、「環境展」でございますが、期間中、市役所ロビーをはじめといたしまして、北村支所、栗沢支所の3か所で地球温暖化防止パネルを展示いたします。

また、ごみ・環境総合案内所クリーンエコでは、ごみの有料化、減量化の各種展示、それと、毎日午前10時から、先着順で100名の皆さまに花の苗をプレゼントすることとしております。なお、4日については、後程ご説明いたします環境フェスタの会場でありますイベントホール赤れんがにて、午後1時から岩見沢農業高校環境造園科の生徒さんが育てていただいたアサガオを配布する予定となっております。

次に、「環境施設見学会」でございますが、今年の4月から本格稼働しております、いわみざわ環境クリーンプラザ「いわ☆ぴか」の見学を、5日を除く毎日実施をいたします。

4日には、環境週間のメインイベントであります、「環境フェスタ」をイベントホール赤れんがにおいて開催し、大型リサイクル品の販売やごみ処理や分別・減量化についての各種展示を行うこととしております。なお、環境フェスタと同時開催で「岩見沢ハイ！元気プロジェクト」主催により、まちなかマーケットを同会場にて開催して、フリーマーケットやステージ発表などを実施することとしております。また、2階の多目的室におきましては「自然エネルギーがつくる豊かな暮らし」と題しまして、北海道大学大学院工学研究院の山形定助教による講演会を開催することとしております。

また、7日からは、1条から4条の中央通りから駅前通りまでの歩道を清掃する、「まちなか環境美化活動」を環境週間にちなんだイベントの締めくくりとして実施することとしております。

最後に、「いわみざわ環境美化の日」でございますが、市内の事業所や町会に身の回りの美化運動を呼びかけまして、既に始まっている場所もございますが、6月23日から7月21日までの1か月の間に、ごみ拾いや植栽などの美化活動にご協力をいただくことになっております。

是非、多くの皆様に、ご参加いただきたいと考えているところでございます。

質疑応答

なし

3 2015 いわみざわ彩花まつりについて

説明内容

(市長)

それでは、いわみざわ彩花まつりについて、ご説明をさせていただきます。

「2015 いわみざわ彩花まつり」を、7月6日（月）から12日（日）までの1週間にわたりまして、あやめ公園、バラ園、中心市街地、駅東市民広場公園などで開催をいたします。

期間中の主な内容でございますが、7月10日（金）午後6時から、観光踊りパレードが実施をされます。今年は24団体、1,070人の市民の皆さんの参加を予定しているところでございます。

土曜・日曜日のイベントといたしましては、「トップ パフォーマンスフェスタ」と称しまして、人気のあるパフォーマーによる「バルーンショー」、さらには「似顔絵ショー」などを行うほか、子ども達に人気のある「ふれあい動物園」、農産物の販売を行う「農産物フェア」など開催を予定しております。

また、12日（日）午後8時から、北海道グリーンランド遊園地におきまして、恒例であります「花火大会」が開催されます。およそ3,000発の花火の打ち上げを予定しております。

なお、昨年の彩花まつりには、大変天候にも恵まれまして約15万6千人の方にお越しいただきましたが、今年のイベントも天候にも恵まれまして、より多くの方にご来場いただけますことを期待しております。

また、次第には記載しておりませんが、彩花まつりに先立つ花のイベントと致しまして、いわみざわ公園バラ園において「バラまつり」が先日、6月27日から開催されておりますので、この機会に簡単にPRさせていただきたいと思っております。

開催期間は6月27日から7月5日まででございます。イベントの内容ですが、バラ園内をスタッフがガイドしながら散策する「ローズツアー」の開催や、ガーデニング用品の販売コーナーを設けるなど、様々な企画を用意しているところでございます。

今年のバラ園は今月の中旬頃から、一季咲きのオールドローズから四季咲きのモダンローズまでが咲き初めまして、今がシーズンの中でも一番、美しく鮮やかで、大変素晴らしい時期を迎えております。

ちょうど今年でバラ園はリニューアル後3年目でございますけれども、バラの株も、年々大きく成長してきておりますので、道内最大級の規模を誇る「いわみざわ公園バラ園」「北国のバラ園」を市内外の多くの皆さまに、堪能して頂きたいと願っているところでございます。

質疑応答

（北海道新聞）

ドローンの取扱いについてもう少し説明していただけますか。

（市長）

ドローンの取扱いについては、実行委員会でいろいろ協議をしていただいた結果、使用の禁止ということで、この資料に書いておりますけれども、新聞の折り込みチラシの中にも掲載し、観光協会のホームページでも使用の禁止についてお知らせをするということにしています。

（北海道新聞）

イベント会場なのですけれども、全部ですか。

（市長）

そうです。

（北海道新聞）

この後にまだお祭りが控えているのですけれども、それについての取扱いはどうなっているのか。

（市長）

基本的には実行委員会で協議をしていただいてそれぞれ決まることになると思います。ただ、落下すると危険性が伴いますので、使用禁止ということが基本となるのかなというふうには思っております。

4 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（北海道新聞）

先週の金曜日に市議会本会議が終わりまして、その中で、市議の酒気帯びについて市議会で辞職勧告決議案が可決されたということで、市政施行依頼初めてそういった辞職勧告決議案がありまして、そのことについて率直にどのような感想を持っていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

（市長）

感想というか、市議会議員の方は日頃の発言ですとか、行動には責任を持つということが基本になるかと思えます。そういった責任もさることながら、また、市民の方々から付託を受けたという責任もあろうかと思えますので、市政始まって以来の決議案でありましたけれども、そこはご本人がしっかり適切に考えるということになるんだなと思いつつながら、議場の中で聞いておりました。

（北海道新聞）

基本的に、飲酒運転についての、言わずもがななんですけれども、改めて飲酒運転に対する市長の想いを聞かせてください。

（市長）

岩見沢市にとっては、昨日かな、小樽の銭函での事故に関しての第1回の公判が開かれました。あの時も岩見沢市内の4名の女性の方、本当に若いこれから未来のある方のうち3名がお亡くなりになったわけです。あの時は多くの市民の方もショックを受けたと思えますし、交通安全推進協議会としては、岩見沢警察署と連携による緊急の安全集会を開いております。そもそも飲酒事故というものは、飲酒をして車を運転するということは、認められないことでして、当然酒気帯びとか飲酒運転というのは撲滅に向けてどこの自治体でも市民の方それぞれが深く心に刻んで取り組んでいく問題かなと思っております。

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。（作成：岩見沢市秘書課広報係）